



TITLE:

天文同好會廣島支部だより

AUTHOR(S):

TO

CITATION:

TO. 天文同好會廣島支部だより. 天界 1931, 11(119): 207-208

ISSUE DATE:

1931-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161628>

RIGHT:

天文同好會

廣島支部だより

T O 生

9月は種々な都合で例會がお流れになつて仕舞つたのは甚だ残念でありました。

10月15日—京大 YMCA の學術講演會が晝夜二回催されました。15時30分より高等工業の講堂で、山本先生は“太陽の正體”と言ふ幻燈を應用してお話になりました。19時30分よりは中央メソジスト教會 SS ホールで同じく幻燈應用で“宇宙の限界”と題して神の聖わざの偉大なる事に付いてお話になりました。兩回共仲々の盛會でありました。支部と致しましても會員へ通知を出しましたので、多くの方々が出席されて居りました。

11月 1日—18時より廣文館書店の四階で電信隊へ入營して居られる 黃道光課長の 稻葉氏をお招きして座談會を開きました。當夜は雨がドシャ降りでしたが、26名も出席されました。自己紹介の後稻葉氏は天文學の歴史から最近の天文學に付いてのお話をされ會員からの質問に一々ていねいにお答へ下さいました。其後中村饒氏が總會の有様最近の花山の情況等のお話があり、大學の33櫃を貸してやると言はれるがどうする？と言ふ問題を出され。それに付いて各自思ひ思ひに意見をのべ合ひましたが一時考慮する事になりました。又全市の小學校を巡回して觀測會を開き天體をのぞかなければ小學校を卒業させない様に仕様と言ふ説がありました處、神崎小學校長戸津川氏が「學校の方の事は私がどんなにでもするから是非やつて呉れ」と言はれ一同大賛成で近々から始める事と決議されました。雑談の後天體寫眞等を見てお別れしました。

10月10日—高師の内にある地學同好會の天文デ！が催され、中村饒氏が講師として出席され、長谷君と私がお手傳ひ致しました。

地學同好會と言ふのは、市内外の中等學校の先生方に依るグループでありまして當夜は約50名出席されました。中村氏の講演の後14cm, 7cm, の屈折機で月、木星、其他を23時近くまで觀測致しました。

11月29日—稻葉氏が退營されるので送別會を催す予定でありましたが都合悪しくそれが出來ず、眞田、中村兩氏と私と4人で、八千代食堂で名物のかき等を食し乍ら打とけてお話してお別れ致しました。

12月4日—小學校巡回の第1回を神崎小學校で18時30分から開きました。高等科の生徒約200名を講堂へ集めて中村饒氏が幻燈應用で天體の種々の話をされました。其後觀測するつもりで7cm機3臺を校庭へ持ち出しましたが、うらめしや秋の空。先程まで良く晴れて居た空が一面の雲で觀測も出來たものではありません。生徒も私達も残念なのに涙をのみました。生徒を歸した後、出席された20名程の會員が集つて磯貝氏の北極星の傳説とカノープスの面白いお話を承り、雜談後、空が晴れたので、月、木星、火星、オリオン星雲等を觀測して散會致しました。

——以上で5年度の報告を終ります——

會計報告 昭和五年來で、會計を締切りました所、次の様な結果になりました。

出		收 入	
天界星同附録、總目、印刷費	1,683.08	會費、觀測部費	2,487.20
印刷費、簡易星圖其他	45.00	賣上、星圖其他	319.35
原稿料、別刷費用	49.10	廣 告 料	100.00
通信、運搬費、天界送料其他一切	260.67	雜益、年鑑印税其他	229.26
雜費、集會費用、封筒、用紙等	107.94		3,135.81
事 務 費	50.00		
内外出版會社掛借金返濟	600.00		
	<u>2,795.79</u>		

支出の方で前年より著しく増したのは通信費である。「星」を四種扱で發送した爲、送料は殆んど倍加して居る。又印刷所を内外出版から似玉堂へ移した爲、昔からの掛借金を返濟せねばならず、臨時に600.00の支出増となつた。収入の方は何れも多少減收であるが、「天界」の印刷費が、かなり下つた爲め多少餘裕ある結果が出て、これまでの繰越缺損を補ひ、又六年度の方針も心配なく立てる事が出来る様になつた。(池田)

事務室よりお願ひ。「天界」の見本や會則等を宣傳用として精々御使用願ひます。御一報次第、發送致しますし、又、送り先を御指定下されば、其の所あて直送致します。